



TITLE:

表紙、序、例言、目次、図版目次
、挿図目次、表目次、奥付

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙、序、例言、目次、図版目次、挿図目次、表目次、奥付. 京都大学構内遺跡調査研究年報 1978, 1977

ISSUE DATE:

1978-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/227374>

RIGHT:

京都大学構内遺跡調査研究年報

昭和52年度

京都大学埋蔵文化財研究センター

序

本年度は記念すべき年であった。かねてより念願していた、考古学に関する機関の一つが、京都大学埋蔵文化財研究センターとしてスタートしたのである。

京大のキャンパスには遺跡が多い。北部構内の縄文時代の農学部遺跡、人文科学研究所分館附近の縄文時代北白川遺跡、高槻市の農学部附属農場にある弥生時代の安満遺跡、高槻市の理学部附属地震観測所内にある阿武山古墳、和歌山県白浜にある理学部瀬戸臨海実験所の遺跡などは、学界でも著名な遺跡である。そして、病院・医学部構内などは、平安時代の院の御所に関連する遺跡として知られている。したがって、研究室や教室などの新築には、当然、遺跡破壊の問題とぶつかってくる。

建設工事に伴う遺跡の破壊は、大きな社会問題の一つであり、自然環境破壊の公害と同じ範疇に属している。文化財を保存するためには、三つの条件がそろわなければならない。第一には、国民の広い認識と理解であり、第二には、国家や当局の行政的・財政的援助であり、第三には、保存の要否や、保存方法についての学問的検討である。大学はこの三つの条件がそろいやすい組織である。したがって、この問題に対処する仕方について、世間への範を示すことが、当然期待されている。大学当局も、これらの事情に十分の理解を示し、調査、保存、センター設立という諸施策を実行してくれた。

センターの事業は、京大構内遺跡の調査と保存を第一とするが、その目的は、単に京大構内の遺跡だけではない。地下に埋蔵されている文化財を調査する方法の改善と、遺跡保存の学問的検討が、われわれの課題である。そのためには、考古学のみならず、自然科学、人文科学の多くの関連科学との共同研究がどうしても必要であり、センターは共同研究の場として活用されなければならない。

現在のセンターの規模は、この目的を達成するためには、まことに弱体である。ただ、幸いなことに、構成員として、一騎当千の強者たちを集めることができた。そのおかげでセンターの能力以上の業績をあげることができたと自負している。その最初の成果が本書である。

もっとも、京大構内遺跡の調査は、センターの設立以前から、京都大学構内遺跡調査会らの手によってなされており、昨年度の成果の報告は、すでに出版されている。したがって、京大構内遺跡の調査研究年報としては、2冊目にあたる。これは、前記調査会の調査成果と、センターの調査及び研究を併せたものであり、今後、毎年刊行して行くつもりである。本書が文化財の研究と保存について、少しでも役立てば幸いである。

終りに、当センターの設立と研究活動に支援、協力をして下さった機関や個人の方々へ厚くお礼申しあげる次第である。

昭和53年1月

京都大学埋蔵文化研究センター長

樋口 隆 康

例 言

- 1 本年報は京都大学構内で昭和52年1月から同12月末日までに現場作業を終了した埋蔵文化財調査と保存の概要報告および京都大学構内遺跡に関する研究をまとめたものである。
- 2 国土座標に従って1辺50mの方形の地区割をし、遺跡の位置を表示した(図版1)。
- 3 層位と遺構の位置は国土座標($x=108,000$ $y=20,000$)が($X=2,000$ $Y=2,000$)となる構内座標を割り付け、標高の基準は理学部地質学・鉱物学教室地階重力原点(TP: 60.82m)によった。方位Nは真北をさす。
- 4 遺構の略号を使う場合は、奈良国立文化財研究所の方式に従って、溝(SD)、井戸(SE)のように表示し、調査した遺跡ごとに通し番号を01から付した。調査名の区別が必要な場合は、次のローマ数字で表示し略号の前に付した。
Ⅰ：京大病院遺跡 AH17 区発掘調査。 Ⅳ：北部構内試掘・立合調査。
Ⅱ：京大病院遺跡 AF14 区発掘調査。 Ⅴ：教養部構内試掘調査。
Ⅲ：医学部構内試掘調査。 Ⅵ：和歌山県瀬戸遺跡発掘調査。
(例 ISE01：京大病院遺跡 AH17 区井戸1番)。
- 5 遺物番号は本文、写真、実測図を通して表示を統一した。遺跡の調査名であるローマ数字のあとに、調査ごとの通し番号を01から付した。
(例 I 01：京大病院遺跡 AH 17区出土遺物1番)。
- 6 本文中では次の略称を用いる。
奈文研：奈良国立文化財研究所。
京文研：京都市埋蔵文化財研究所。
烏丸調査会：京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会。
同志社調査会：同志社大学校地学術調査委員会。
埋文研：京都大学埋蔵文化財研究センター。
調査会：京都大学構内遺跡調査会。
京大埋文年報77：京都大学農学部構内遺跡調査会・京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内遺跡調査会『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和51年度』1977年。

- 7 参考文献は、本文中に〔著者名，発表年次〕の形式で表わし，本文末の参考文献目録に一括した。
- 8 遺物整理は調査員全員と調査補助員がたった。
- 9 遺物の実測と整図は，泉拓良，宇野隆夫，岡田保良，吉野治雄，丹羽佑一，鎌田博子，出田和久，清水朱美，田中はる代，三木佳代子，藤原喜信，西野素生，花谷浩，原充が担当した。遺物の写真撮影は泉拓良，宇野隆夫，丹羽佑一が担当した。
- 10 本文は樋口隆康，藤岡謙二郎，泉拓良，宇野隆夫，岡田保良，吉野治雄，丹羽佑一が各章を分担執筆し，執筆者名は章の初めに記した。構成は宇野が立案し，編集は樋口，泉，宇野，岡田，吉野が行なった。

目 次

京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和52年度

第1部 昭和52年度京都大学構内遺跡の調査

第1章 昭和52年度京都大学構内遺跡調査の概要	1
第2章 京大病院遺跡 AH17 区の発掘調査	5
1 層位	5
2 遺構	5
3 遺物	7
4 小結	8
第3章 京大病院遺跡 AF14 区の発掘調査	9
1 層位	9
2 遺構	10
3 遺物	13
4 小結	16
第4章 京都大学吉田キャンパスの試掘と立合調査	17
1 医学部基礎医学研究室実験室予定地の試掘調査	17
2 理学部合同建物予定地および北部構内電気管理設予定地の試掘調査	18
3 北部構内電気管理設工事の立合調査	19
4 その他の立合調査	20
第5章 和歌山県瀬戸遺跡の発掘調査	21
1 遺跡の立地	21
2 調査の方法	21

3 層位	23
4 遺構	26
5 遺物	27
6 小結	30
第6章 昭和52年度京都大学構内遺跡調査の成果	33
第2部 京都大学構内遺跡の研究	
第7章 北白川扇状地と京都大学構内遺跡	37
第8章 京都大学北部構内の地形復原	43
——縄文時代から弥生時代——	
1 北部構内の層位	43
2 後背低地と微高地の形成	44
3 北部構内弥生前期の地形復原	46
4 地形復原よりみた遺跡の立地	47
5 まとめ	47
第9章 京大病院遺跡出土の土器	49
——古代末から中世——	
1 京大病院遺跡出土の皿と鉢と羽釜	49
2 京大病院遺跡における知見と考察	51
3 小結	54
参考文献目録	55
京都大学構内遺跡調査要項	57

図版目次

- 1 京都大学吉田キャンパス地区割図
- 2 京大病院遺跡 AH17 区 遺構平面実測
- 3 京大病院遺跡 AH17 区 江戸末～明治時代の遺構
- 4 京大病院遺跡 AH17 区 1. 集石 SX 4・5 平面と断面 2. 井戸 SE1 3. 井戸 SE1
内に投げ込まれた礫
- 5 京大病院遺跡 AH17 区 土師器, 陶磁器, 土製品, 瓦類
- 6 京大病院遺跡 AF14 区 1. 第 1～4 層発掘後全景 2. 発掘終了後全景
- 7 京大病院遺跡 AF14 区 1. N4 区北壁の層位(東部) 2. N3 区の井戸(南から)
3. 川 SX02 の断面(N4 区北壁) 4. 川 SX02 の東岸(南
から)
- 8 京大病院遺跡 AF14 区 1. 井戸 SE13(東から) 2. 井戸 SE10(東から) 3. 井
戸 SE12(北から) 4. 井戸 SE20(東から)
- 9 京大病院遺跡 AF14 区 瓦
- 10 和歌山県瀬戸遺跡 1. 遺跡遠景 2. B トレンチ全景
- 11 和歌山県瀬戸遺跡 1. A トレンチ人骨検出状態 2. A トレンチ貝塚の層位
(縄文晩期後葉)
- 12 和歌山県瀬戸遺跡 1. B トレンチ北部東壁の層位 2. C トレンチ水溜りに伴
なう石群
- 13 和歌山県瀬戸遺跡 A トレンチ人骨
- 14 和歌山県瀬戸遺跡 1. C トレンチ水溜りに伴なう石群と葺石状石群 2. C ト
レンチ箱式石棺
- 15 北白川扇状地と京都大学構内遺跡 京都大学吉田キャンパスの等高線図
- 16 京都大学北部構内の地形復原 京都大学北部構内高低測量図・弥生前期の地形

挿 図 目 次

1	地区割と構内座標と国土座標の関係	2
2	発掘区東壁の層位	5
3	井戸 SE1 平面と断面	6
4	溝 SD2 上面の礫群	7
5	溝 SD1 出土の土師器	7
6	溝 SD1 出土の塩壺	8
7	N4 区北壁の層位	10
8	井戸 SE13 平面と断面	10
9	井戸 SE16 平面と断面	11
10	発掘区遺構平面	12
11	井戸 SE20 出土の土器	14
12	暗灰色シルト(第10層)出土の土器	14
13	井戸 SE10 出土の土器	15
14	融着した土器	15
15	溝 SD05 出土の土器	15
16	野壺 SE01 出土の土器	16
17	TP1 土壙の平面と断面	17
18	TP1 土壙出土の土器	17
19	TP6 の層位	18
20	TP6 出土の土器	19
21	立合調査出土の土器	19
22	周辺の遺跡	21
23	調査区域	22
24	A トレンチ層位	24
25	B トレンチ層位(東壁)	25
26	C トレンチ層位	26
27	A トレンチ出土の人骨	27

28	縄文土器(中期～晩期).....	28
29	縄文土器(晩期).....	29
30	縄文時代の石器と骨角器.....	30
31	弥生時代以降の遺物.....	31
32	京都大学構内遺跡出土の弥生土器.....	33
33	(1)土地条件図にみる扇状地 (2)地質と岩石の分布略図.....	38
34	明治20年仮製地図略図(左)と明治9年京都市分一覽之図(右).....	40
35	教養部構内の遺物包含地点の層序(昭和47年).....	42
36	旧微高地の層位.....	44
37	旧後背低地の層位.....	44
38	河道と後背低地の關係を示す層位.....	45
39	縄文時代に埋積した河道.....	45
40	土師器の皿.....	50
41	土師器の皿.....	50
42	須恵質大平鉢.....	51
43	瓦器の羽釜.....	51

表 目 次

1	同志社校地下の礫層の礫種組成.....	41
2	現在の川原における礫種組成.....	41
3	京都大学構内遺跡調査の歴史.....	61

昭和53年3月25日印刷

昭和53年3月31日発行

京都大学構内遺跡調査研究年報

昭和52年度

編集 集行 京都大学埋蔵文化財研究センター

印刷 刷本 有限会社 真 陽 社
京都市下京区油小路仏光寺上ル